平成26年(2014年)

冬号

大津・南部の農業

発 行

滋賀県大津・南部農業農村振興事務所農産普及課草津市草津三丁目14-75TEL 077-567-5421~5423FAX 077-562-8144

メールアドレス ga35@pref.shiga.lg.jp 発行責任者 古谷 博幸

この印刷物は古紙バルプを配合しています。



- ●水田を活用した野菜生産が拡大しています!
- ●果樹 新技術紹介、新たな担い手の確保に向けて
- ●滋賀県立農業大学校就農科 学生募集について
- ●平成27年産「みずかがみ」生産者を募集します!

水田を活用した野菜生産が拡大しています!









直売所や学校給食への供給拡大、水稲農家の所得向上を図るため、管内各市で水田を活用した野菜の作付が拡大しています。

作付品目は、キャベツ、はくさい、たまねぎ、にんじん、かぼちゃ、さといも、なばな等で、関係機関と連携しながら、栽培技術の習得、省力化技術の導入や販路開拓を支援しています。生産面積は年々拡大し、集落営農組織・大規模水稲農家での取り組みも増えてきました。

米の生産調整品目として、また、冬期の水田と労働力を活用する品目として、水田野菜の生産に挑戦してみませんか?

水田を活用したキャベツ生産~大津市における新規取組紹介~

大津市では、定植機などの省力化機械の導入により、初めて でも取り組みやすい環境の整備を進めています。

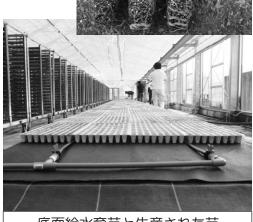
今年度は新しい育苗法や施肥機を導入してキャベツなどの生産安定に取り組まれましたので、概要を紹介します。

1 取り組みやすい環境の整備を進めています(1) JAが苗生産を担う分業化

今年はJAが水稲育苗施設で50a分(育苗トレイ約150枚)のキャベツ苗を試作され、集落営農組織へ供給されました。

育苗は、県農業技術振興センターが開発した「底面 給水育苗システム」を導入して行われました。

育苗トレイの下に給水マットを敷いてタイマーと潅水チューブで自動潅水する方法で、育苗の手間が削減され、安価で良質な苗を生産することができます。



底面給水育苗と生産された苗

(2)低コスト・省力化栽培体系の推進

平成25年度にJAが市の事業を活用して定植機を導入し、今年度は「うね立て成形機とうね内部分施用機」を導入されました。これらの機械を共同利用することにより、定植作業の省力化や初期導入経費の削減をすすめています。また、水田での野菜栽培に必要な排水性の確保や定植の精度の向上により初期生育が確保されます。初年度から安定生産できる環境を整備することにより、取り組みは3法人1戸、作付面積は1haに拡大しました。



2 農事組合法人「農~夢せきのつ」での取組事例

農事組合法人「農~夢せきのつ」では、大津市の事業を活用し、25年度から、40aの水稲跡秋冬キャベツの栽培に取り組まれています。

平成25年度は、台風による定植時期の遅れや排水 対策の不良により収量が低くなりました。

そこで、今年度は、9月上旬定植を目指して水稲の作業時期を見直し、排水対策にも力を入れられました。面積も2倍の80aに拡大され、学校給食や地元の直売所、量販店等に出荷される予定です。



新技術紹介 初心者が取り組みやすいプドウ栽培



大津市の嶽山さんと野洲市の㈱南農園では、県農業技術振興 センター花・果樹研究部で開発された新技術によりブドウを栽 培されています。

この技術は、県内で栽培が多い赤系の大粒ブドウの色づき向 上対策として開発されました。

防根シート製ポットを埋め込み、根域制限栽培するととも に、枝の位置を下げた改良型仕立て法を組み合わせることで、 初心者でも安定して栽培でき、体への労働負荷が軽減できま

す。定植4年目に成園化でき、樹勢を抑えられることから果実の色づきが向上し、収穫時期も前進します。

2戸の生産者は平成25年から取り組んでおられ、植付け2年目となるこの夏、房全体の色づき・粒ぞろい・形ともに良いブドウを初収穫されました。水管理もしやすかったとのことです。

また、滋賀県果樹組合連合会では、赤系ブドウの中で一定基準を満たしたものを『紅式部』としてブランド化を図っています。この技術により色づきが増すことで、『紅式部』の生産拡大につながることが期待されます。

果樹の新たな担い手の確保に向けて

前出の㈱南農園には、若い就農者がおられます。

堀大輔さん(21歳)です。堀さんは、農業大学校を卒業した後、平成25年4月に当農園に就農就職されました。大津市の非農家出身ですが、子供の頃から植物を育てるのが好きだったことや、農大の農家派遣実習で経営主の姿やそこで働く先輩から話を聞き、果樹農家への就農就職を希望されたそうです。



現在は、ナシ・カキ等の栽培管理全般に携わって技術習得に努めておられ、上記のブドウ栽培の主担当として品質の高いブドウを生産されています。「自分が全てを任される部門を早く持てるようになりたい!」という目標を持って頑張っておられます。

当課では、果樹の生産拡大を目指して、初心者でも安定して栽培できる技術の普及や新規栽培者の確保に取り組んでいます。果樹経営を行うには育成年数が必要となることなどから、新規就農者が新たに果樹栽培を開始することは難しく、就農就職や経営の継承等が有効な手段となっています。管内には、堀さんの他にも、意欲ある若い果樹生産者や今後の就農予定者がおられます。若い力で果樹産地が盛り上がるよう、当課も継続して支援を行っていきます。

滋賀県立農業大学校就農科学生募集について

県立農業大学校では、円滑な就農と就農後における安定した農業経営の実現を支援することを目的に、就農年限1年の就農科を設置しています。

就農科には野菜・花き・果樹の3コースがあり、実習や講義を通じて就農支援を行っています。 願書受付期間は平成26年12月22日(月)から平成27年1月23日(金)(必着)です。

関心のある方は当課(電話077-567-5421) または農業大学校(電話0748-46-2551) へお問い合わせください。

平成27年産 みずかがみ 生産者を募集します!

近年、近江米は登熟期の高温が大きな原因である乳白米などの白未熟粒が多く発生し、 一等比率はたいへん低い水準にとどまっています。

そのなかで、滋賀県では高温でも白未熟粒が発生しにくく、食味のたいへん良い水稲新品種 みずかがみ を育成し、平成25年度より県内全域で栽培が始まりました。

平成26年度は県内で1,000haを超える面積で作付され、8月の日照不足のなか、一等比率は「コシヒカリ」を大きく上回るものとなりました。

下記に みずかがみ の特徴と栽培申込みの概要を紹介しますので、皆さんも みずかがみ を栽培してみませんか。

1 みずかがみ の特徴は?

①外翻品質

乳白などの白未熟粒が少なく、1等に仕上げやすくなっています。

②食味

「コシヒカリ」と同じく極良食味で、冷めてもおいしい品種です。

③収穫時期

「コシヒカリ」より数日~1週間程度早い「早生品種」です。

④収量

「コシヒカリ」、「キヌヒカリ」と同じぐらいです。

⑤田植え時期

暑さに強いので5月初旬に田植えができます。

2 みずかがみ 生産者の要件は?

生産者要件は近江米振興協会が「推進プロジェクト実施要領」において次のとおり定めています。

- 1. できるだけ60a以上作付けしてください。
- 2. 環境こだわり農産物の生産計画認定を受けてください。
- 3. 県の栽培基準に沿って栽培してください。
- 4. 全量種子更新し、自家採種はしないでください。
- 5. 種子を第三者に譲渡しないでください。
- 6. 1.85mm以上の網目で調製してください。
- 7. 出荷の前には農産物検査を受けてください。
- 8. 生産量から飯米を除いたああむね全量を集荷業者に出荷してください。

3 みずかがみ お問合せ、栽培申込先は?

みずかがみ に関するお問い合わせは、当課(電話077-567-5421)、各地域の農協、または 滋賀県主食集荷商業協同組合の組合員(以下「主食商」)までお願いします。

栽培申込書などの様式(書類)は上記または県ホームページから入手していただき、農協または主食商までご提出ください。【申込期間:12/26まで】

なお、種子は有償で販売しますが、価格は未定です。



皆さんの栽培申込みをお待ちしております!

